

生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> 教科書等の漢字を読むことはできても、必要に応じて適切な漢字を用いて文章を書く習慣がついておらず、平易な漢字でもひらがなで書く生徒がいる。 自らの意見や考えを、グループワークや全体での共有場面を通じて伝え合うことのできる生徒が多い。しかし、発言に自信がもてなかったり、グループの相手によっては積極的に発言できなかったりする生徒もいる。また、他者の意見・考えと、自分の意見・考えを比較したり、他者の意見・考えを取り入れたりして、自分の考えを深めることについては課題のある生徒が多い。 「書くこと」については、比較的抵抗なく文章を書ける生徒が多い。しかし、筆者の主張や文章の主題を的確に捉え、ふさわしい語彙を選んで効果的に書くことについては課題のある生徒が多い。 文学的文章や説明的文章については、要旨や筆者の主張を捉えたり、表現の工夫について考えたりすることができる生徒が多い。しかし、社会生活で触れる文章の読解や語彙の獲得については課題のある生徒が多い。
指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を、場面に応じて適切に使い、正確に書く力をさらにつける必要がある。 互いの意見・考えをさらに深めるための効果的な話し合いや意見交流の場面を、意図的かつ計画的に設定する必要がある。さらに、互いの意見を取り入れることで、自分の意見が深まることを実感できる機会をつくる。 文章の要旨や筆者の主張を捉える学習活動を取り入れるとともに、自分の考えや思いを相手に的確に伝えるために、効果的な語彙や表現・順序を吟味して書く力を定着させる必要がある。
授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> 「板橋区スタンダード」に則り、授業の最初には「本時のねらい」、最後には「振り返り」の時間を設定する。→学んだことを見える化し、ついた力をどのように活用するかを意識できるようにする。 校内研修の研究テーマである「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」をめざし、感染対策に十分配慮しながら、グループでの協働学習を取り入れる（4人1グループを原則とする）。→互いの意見や考えの共通点・相違点を的確に捉えたり、文章の主題や筆者の意図について、ポイントとなる表現に即して考え・意見交換したりする機会を多くもつ。そして、初発と意見交流をした後では、自分の意見や考えが深まったり、さらに確信をもてるようになったりしたことを自覚できるようにする。 既習の漢字を使って文章を書く機会を、意図的かつ計画的に設定する。→新出漢字を使って作るウソ作文や短文づくりとともに、「大人っぽい、カッコいい表現を使って書こう」と声かけすることで、新しい語彙や文章表現を獲得する動機付けを行う。 「書くこと」を習慣化する。→さまざまな条件を設定した200字等の文章を書く機会を多く設ける。あわせて、小中一貫教育推進の国語科の視点である「語彙力の獲得」をめざし、効果的な語彙の使用や文章表現の方法等についても指導し、よい文章は全体に示して共有し、互いの刺激になるようにする。 古典の音読や暗唱を繰り返すことで古典に親しむ態度を養いながら、古人と現代に生きる私達の考え方の共通点を探る活動を取り入れ、古典の学習が身近に感じられるようにする。また、古典の学びをどう活用するかについても互いの意見を交流し、古典学習の意義を主体的に考える機会とする。

生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年と比較すると、文章の中に平仮名が少なくなり、できるだけ漢字を使おうとする意識が高まってきた。しかし、相変わらず生徒によっては「面倒臭い」といった理由で、書ける漢字も平仮名で書いてくる者もあり、また、わからない漢字をすぐに辞書で調べるという習慣が依然ついていない生徒も多い。 • 話し合い活動が好きで、自らの意見や考えを、グループワークや全体での共有場面を通じて伝え合うことのできる生徒が多い。 • 「書くこと」については、抵抗なく書き進めることのできる生徒も多いが、伝えるべき内容を整理し、効果的な語彙や書く順序を吟味することについては不十分である。また、作文が苦手な抵抗感があり、作文課題に全く取り組もうとしない生徒もいる。 • 自分の考えに自信をもてない生徒が多いが、昨年に比べ、挙手する生徒がだいぶ増えてきた。また、自由発言にすると多様な考えを発表することもできる。
指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> • 学習した漢字を、必要な場面に応じて的確に使い、正確に書く力をさらにつける必要がある。また常に書ける漢字は必ず漢字で書く意識をもたせる。 • 互いの意見や考えをさらに深めるための効果的な話し合いや、意見交流の場面をもつ必要がある。また、コロナ禍での意見交流・学び合いの方法をさらに模索していく必要がある。 • 自分の考えや思いを、相手に的確に伝えるために、効果的な語彙や表現・順序を吟味して書くことのできる力をつける必要がある。 • 主体的に考え、意見を交流する時間を増やし、飽きさせない授業を意識する必要がある。
授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> • 漢字を読み書きする力をさらに定着させるために、定期的に漢字テストを実施する。 • 自分の意見や考えをさらに深めるために、互いの意見や考えの共通点・相違点を的確にとらえたり、文章の主題や筆者の意図について、ポイントとなる表現に即して考えたりする機会を多くもつ。 • 段落の役割や文章の構造を考える機会を増やし、読み解く力を養う。 • さまざまな状況に応じた「書く力」をつけるために、各单元の中で200字程度の課題に取り組みさせる。書いた文章については互いに読み合い、工夫のある効果的な表現に気づき、自分の文章に取り入れるように指導する。 • コロナ禍における話し合い活動方法の中で、3～4人でのグループ活動の時間を多く取り入れ、自分の考えを広げる機会を増やし、集中力を持続させるようにする。また、話し合い活動ではタブレットを多用し、声を出さずタブレットの画面上で意見を交流するなど、やり方を工夫する。 • 授業では、昨年に引き続き「間違ってもいいんだ」という雰囲気作りを大切にし、積極的な挙手・発言ができるようにする。 • 単元の終わりでは必ずその単元を振り返り、「この単元を通して学んだこと」「学んだことを通して、さらに学びたいことや疑問に思ったこと」を振り返りシートに記入し、主体的に考えることができるようにする。

生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 社会生活の中で、漢字を読むことはできても、必要に応じて適切な漢字を用いて文章を書く習慣がついていない生徒が多い。 • 自らの意見や考えを、グループワークや全体での共有場面を通じて、伝え合うことのできる生徒が増えてきた。しかし、他者の意見・考えと、自分の意見・考えを比較したり、他者の意見・考えを取り入れたりして、自分の考えを深めることについては苦手な生徒が多い。 • 「書くこと」については、抵抗なく書き進めることのできる生徒が増えてきた。しかし、筆者の主張や文章の意図することを的確に捉え、自分の体験等と関連付けて書くことについては苦手とする生徒がいる。 • 文学的文章や説明的文章については、要旨や筆者の主張を正確に捉えることができる生徒が増えてきたが、古典や文法については苦手意識をもち、意欲的に学習に取り組めない生徒が少数いる。
指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> • 学習した漢字を、場面に応じて適切に用い、正確に書く力をさらにつける必要がある。 • 互いの意見や考えをさらに深めるための効果的な話し合いや意見交流の場面を、意図的かつ計画的に設定する必要がある。 • 文章の要旨や筆者の主張を捉える学習活動を多く取り入れるとともに、自分の考えや思いを相手に的確に伝えるために、効果的な語彙や表現・順序を吟味して書く力を定着させる必要がある。 • 古典や文法を身近に感じることで、苦手意識をもたずに意欲的に学習できる課題を設定する必要がある。
授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> • 「板橋区スタンダード」に則り、授業の最初には「本時のねらい」、最後には「振り返り」の時間を設定する。→学んだことを見える化し、ついた力をどのように活用するかを意識できるようにする。 • 校内研修の研究テーマである「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」をめざし、感染対策に十分配慮しながら、グループでの協働学習を取り入れる（4人1グループを原則とする）。→互いの意見や考えの共通点・相違点を的確に捉えたり、文章の主題や筆者の意図について、ポイントとなる表現に即して考え・意見交換したりする機会を多くもつ。そして、初発と意見交流をした後では、自分の意見や考えが深まったり、さらに確信をもてるようになったりしたことを自覚できるようにする。 • 既習の漢字を使って文章を書く機会を、意図的かつ計画的に設定する。→語彙を使っての短文作りや「振り返り」を書く際にも、必要な漢字を用いて書くことを意識させる。 • 「書くこと」を習慣化する。→高校入試での課題作文・小論文対策も視野に入れ、さまざまな条件を設定した200字等の文章を書く機会を多く設ける。あわせて、小中一貫教育推進の国語科の視点である「語彙力の獲得」をめざし、効果的な語彙の使用や文章表現の方法等についても指導していく。 • 古典の音読や暗唱を繰り返すことで古典に親しむ態度を養いながら、古人と現代に生きる私達の考え方の共通点を探る活動を取り入れ、古典の学習が身近に感じられるようにする。また、文法については、学習した内容で短文作りをする等の活動を通して、社会生活で用いる言語が文法に根ざしたものであることを実感させ、苦手意識を取り除く。

<p>生徒の状況</p>	<p>社会科への興味・関心が比較的高く、発言する生徒も多い。しかし、難易度が高い課題に関しては諸資料を読み解くことなく、すぐに解答を求めたり、作業に時間のかかる生徒もいる。 また、小テストや定期考査において、知識を問う問題に関しては正答率が高いが、「なぜ」「どうして」という発問に答えることができる生徒は少なく、資料の読み取りや理由や原因・結果を答える記述の問題を苦手としている生徒も少なくない。</p>
<p>指導についての課題</p>	<p>「資料を読み取ること」「自分の考えを深めること」という項目に課題がある。そこで、授業の中では、まずは自分の考えをもつ時間を確保することにした。また、「自信がない」「間違えるのは恥ずかしい」という思いをなくし、学習課題に対して、自分からワクワクと取り組めるような工夫をした。グループ活動を行い、自分の考えと他者との新しい考えに触れる中で、「社会科は覚える教科である」といった認識から少しずつ離れられてきた。</p>
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～学力向上に向けた「読み解く力」の育成～</p> <p>①魅力的な学習課題を設定する。 → 生徒が「知りたい」「調べたい」と思う学習課題を設定する。</p> <p>②思考ツールを使い、新しいアイデアを出しやすくする。 → 思考が目に見える形になり、新たな気づきが生まれる。</p> <p>③振り返りの時間を設けることで、工夫調整を図ったり、自らの学びの深まりを確認したりすることで、<u>学びのサイクル</u>を創る。</p> <p style="text-align: center;">「 発意 → 構想 → 構築 → 表現 → 省察 」</p> <p>→ 授業の最後に本時の課題に対する自分の考えを書き、自己の思考の深まりを確認する。</p> <p>④協働の考えをふまえた授業を行う。（4人1グループ） → 生徒の新しい考えに触れたい、認められたい気持ちを大事にする。（対話を生かした授業） 司会、発表、机の形など話し合いの仕方をそれぞれの教科で工夫する。</p> <p>⑤視聴覚資料（ホワイトボード）を活用する。 → ホワイトボードを活用し、話し合い活動を円滑に行う。 書画カメラなどを使い、教科書や資料集などの読み方を確認する。</p> <p>※7年社会科の授業に関する生徒の意見（生徒と教員が参加した授業研究から） （生徒の意見、感想） 資料から読みとって、自分で考えたり、他の人の意見を聞いたりすることは新しい発見があり、とても楽しい。 しかし、毎回の授業で生徒だけで考える授業だとこれで合っているか不安になることもあるので、資料読み取りの授業と先生が教えてくれる授業の両方があると良いと思った。 （上記のことから授業改善） 単元ごとに1～2回程度の課題学習を行い、その他の授業では基礎基本が定着するような授業にしていく。</p>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 好奇心旺盛で、過去や現在の社会的事象に興味をもっている生徒が多い。 • 高い意識をもち、自ら進んで学習に取り組むことができる生徒がいる一方で、基礎的・基本的事項が定着していない生徒もいる。 • 問いに対し、自分のもっている知識をもとに、主体的に考えることができる生徒が多いが、何が問われているかが理解できない、また、根拠となる資料の読み取りを苦手とする生徒もいる。 • 自分の考えをもっているが、それを文章にまとめたり、述べたりすることを苦手とする生徒が多い。 • 協働学習に意欲的に取り組む生徒が多い。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の知的好奇心を刺激する授業を構築すること。 • 生徒に、基礎的・基本的事項を身につけさせること。 • 生徒に、文章や資料を読み解く力をつけること。 • 生徒に、自分の考えを文にまとめる力をつけること。 • 生徒に、自分の考えを発表する力をつけること。 • 協働学習の場を増やすこと。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎的・基本的事項の定着をするため確認テストの実施 →夏休みの課題の確認テスト及び授業ごとのミニテスト • 魅力的な学習課題の設定 →生徒が興味をもって学習できる課題を工夫する。 時事的ニュースと組み合わせ、他人事にならない課題を考える。 • 資料集および視聴覚教材、過去の入試問題などの活用 →さまざまな資料を読み解く力を養う。 • 思考ツールの導入 →思考の「見える化」をはかり、考えをまとめやすくする。 • 協働学習の実施（4人1組） →課題を解決するためにはどうしたらよいのか、意見を出し合い、考えをまとめられるようにする。 • 振り返りの時間の設定 →最低5分、時間をとり、自分の考えがまとめられるようにする。

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 興味のあること、自分の理解できたことについて、物おじせずに自分の意見を述べるができる生徒が多い。 • 昨年度に比べ、受験を意識し、自ら進んで学習に取り組むことができる生徒が増えたが、基礎的・基本的事項が定着していない生徒が多い。 • 課題の意味を理解し、自分のもっている知識をもとに、資料を読み解き、課題の解決を考えることを苦手としている生徒が多い。 • 自分の考えをもっているが、それを文章にまとめたり、述べたりすることを苦手とする生徒が多い。 • 協働学習が進んでいない。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の知的好奇心を刺激する授業を構築すること。 • 生徒に、基礎的・基本的事項を身につけさせること。 • 生徒に、さまざまな資料を読み解く力をつけること。 • 生徒に、自分の考えを文にまとめる力をつけること。 • 生徒に、自分の考えを発表する力をつけること。 • 協働で課題の解決を図ること。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎的・基本的事項の定着をするため復習小テストの実施 →夏休みの課題から出題していく。 • 魅力的な学習課題の設定 →生徒が興味をもって学習できる課題を工夫する。 時事的ニュースと組み合わせ、他人事にならない課題を考える。 • 資料集および視聴覚教材、過去の入試問題などの活用 →さまざまな資料を読み解く力を養う。 • 思考ツールの導入 →思考の「見える化」をはかり、考えをまとめやすくする。 • 協働学習の実施（4人1組） →課題を解決するためにはどうしたらよいのか、意見を出し合い、考えをまとめられるようにする。 • 振り返りの時間の設定 →最低5分、時間をとり、自分の考えがまとめられるようにする。

<p>生徒の状況</p>	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に問題解決をしようとする生徒がいる。 ・授業で理解しても、定着するまでに至っていない生徒がいる。 ・ノートをとることが難しい生徒がいる。その生徒の中では、内容は理解しているが、書くことが著しく苦手な生徒もいるし、内容を理解することも板書を写すことも難しい生徒もいる。 ・基礎・基本となる既習事項の定着が不十分な生徒もいる。 ・課題の提出率は8割程度である。 ・コロナ禍の影響もあり、学び合い活動ができず、教え合いについては不足している。
<p>指導についての課題</p>	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の学力差への対応（少人数習熟度別授業の展開） ・基礎・基本となる既習事項の定着と定着したことの確認 ・考える時間の確保 ・グループ学習や生徒の説明により授業を展開すること ・読み解く力や説明する力の育成
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業により、ひとりひとりの状況に応じた丁寧な指導を心掛ける。生徒の躓いている箇所の言葉掛けを行い、生徒が自力で最後まで考えようとする姿勢を育成する。 ・授業の導入において、既習事項を確認する。 ・定着するために、ワークを活用することのよさを感じさせ、生徒の勉強のサイクルである、予習、授業、復習の学習スタイルをつくらせる。 ・定期考査後に解き直しを行い、自分の出来なかった所を確認し、理解を深めることを習慣化できるようにする。 <p>◇「板橋区授業スタンダード」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容・ねらいを明確にし、生徒がノートに書けていることを確認する。 ・授業のまとめにおいて本時の振り返りをするとともに、ねらいを達成できたか確認できるような授業展開を行う。 <p>◇校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～学力向上に向けた「読み解く力」の育成～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と教え合い、説明することでより深く内容を理解できるような場面を設定する。 <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文からの確に情報を理解する力を育成するために、問題文にラインを引くなどの作業を行う。 ・情報を整理し、数学的に考えるために式・表・図・ことばを活用した思考の整理を行う。

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 数学に苦手意識を持っている生徒も多いが、授業に落ち着いて取り組み、個別対応では、粘り強く練習する様子が見られる。 • 数学に対する学習意欲の高い生徒もあり、自主的に数学に関する課題に取り組んでいる生徒もいる。 • 繰り返し練習する中で、「わかった」「できた」という達成感から学習に対する意欲と自己肯定感を高めている生徒が増えてきた。 • 基礎・基本となる既習事項の定着が不十分な生徒もいる。 • コロナ禍の影響もあり、対話的な学びについては不足しているが、課題に対して自分の考えを持つことや友だちと学び合う姿が増えてきた。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 個々の学力差への対応。（少人数習熟度別授業の展開） • 基礎基本となる既習事項の定着。 • 間違えた問題やわからなかった問題に対する取り組み方。 • 読み解く力や説明する力の育成。 • クロムブックの活用やデジタル教科書の活用。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 習熟度別少人数授業を通して、到達目標を見据えた授業展開を行う。ひとりひとりの状況に応じた指導や、途中過程も評価するような言葉掛けを行う。 • 既習内容の小テストや計算コンクールの継続により、基礎学力の定着を図り、練習すればできるという達成感やわかる喜びや楽しさを味わわせ自己肯定感を高められるようにする。 • 提出物への取組を促し、家庭学習の習慣化と既習内容の確認・定着を図る。単元テストや定期考査時にワークを提出させることで、テストに向けた準備をさせるとともに、テストにより自分の理解度を確認できるようにする。 • 小テスト、単元テスト、定期考査は必ず解き直しを行い、自分の出来なかった所を確認し、理解を深めることが習慣化できるようにする。 • 問題を解決する場面では、既習事項を活用する力、見通しをもって考える力・自力解決する力、記述力や発表力などの表現力を高め、挑戦する意欲を高められるようにする。課題設定や発問の工夫を行う。 <p>◇「板橋区授業スタンダード」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業の導入において、本時の学習内容・目標を明確にし、授業のまとめにおいて本時の振り返りをするとともに、目標を達成できたか確認できるような授業展開を行い、主体的に授業に取り組めるようにする。 <p>◇校内研修 研究テーマ</p> <p>「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～ 学力向上に向けた「読み解く力」の育成 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> • 問題を解く中で、互いに質問や意見交換を行うことで、自ら解決する姿勢を育てると共に、説明することでより深く理解できるような場面を設定する。 <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 問題文からの確に情報を理解する力を育成するために、問題文にラインを引くなどの作業を行う。 • 情報を整理し数学的に考えるために、式・表・図を活用した思考の整理を行う。

<p>生徒の状況</p>	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度以上に授業に対して積極的に問題解決をしようとする生徒もいる中で、未だノートをとることも難しい生徒もいる。 ・基礎・基本となる既習事項の定着が不十分な生徒もいる。 ・課題の提出率は9割程度まで上昇した。 ・授業内では理解できていた内容でも、日をおいて確認すると、定着していないことがある。 ・コロナ禍の影響もあり、学び合い活動ができず、対話的な学びについては不足している。 ・授業の終わりに、ふり返りシート“Step!”に本時のふり返りを記述しているが、その文面には本時の授業を理解しどのように活用していくかといった記述（深い学び）が見られるようになった。
<p>指導についての課題</p>	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の学力差への対応（少人数習熟度別授業の展開） ・基礎・基本となる既習事項の定着 ・グループ学習や生徒の説明により授業を展開すること ・読み解く力や説明する力の育成
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業により、ひとりひとりの状況に応じた丁寧な指導を心掛ける。また、答えに辿り着けなくとも、途中の過程を評価するような言葉掛けを行う。 ・授業の導入において、既習事項を確認する。 ・単元テスト時に取り組んだワークを提出させることで、テストに向けた準備をさせるとともに、テストにより自分の理解度を確認できるようにする。 ・定期考査後に解き直しを行い、自分の出来なかった所を確認し、理解を深めることを習慣化できるようにする。 <p>◇「板橋区授業スタンダード」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容・ねらいを明確にし、生徒がノートに書けていることを確認する。 ・授業のまとめにおいて本時の振り返りをするとともに、ねらいを達成できたか確認できるような授業展開を行う。 <p>◇校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～学力向上に向けた「読み解く力」の育成～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解く中で、互いに質問や意見交換を行うことで、自ら解決する姿勢を育てると共に、説明することでより深く内容を理解できるような場面を設定する。 <p>◇学びのエリアにおける小中一貫教育の推進の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文からの確に情報を理解する力を育成するために、問題文にラインを引くなどの作業を行う。 ・情報を整理し、数学的に考えるために式・表・図を活用した思考の整理を行う。

生徒の状況	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学習に取り組む生徒が多く、グループ学習を行うと活発な意見交換が交わされる。また、ホワイトボードを活用した発表にも慣れており、全体での共有もスムーズに行うことができている。 ・小学校での既習事項が定着していない生徒もいるが、理科や日常の現象に興味をもっている生徒は多い。 ・理科における計算は苦手意識を持っているため、途中で諦めてしまう生徒もいる。しかし、周りが助けようと協力的で学習を放棄する生徒はいない。 ・コロナ禍の影響もあり、実験を通じた学習が不十分である。
指導についての課題	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習における共有の場をより一層増やす必要がある。 ・実験内容の理解を高める必要がある。 ・既習事項の定着
授業改善に向けての具体的な方策	<p>《第7学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックタブレットを活用して、理科実験の動画の視聴や実験の考察を各自まとめるなどコロナ禍での新たな学びの実践を行う。 ・クロームブックタブレットでの意見交換や考えの共有を行い、対話的な学びの場を多く提供する。 ・定期的に課題や小テストを実施することで、知識の定着を図るとともに、一人一人の生徒がどこで躓いているのかを把握する。また、躓きを解消できるよう放課後など質問を受け付ける。 ・日常生活と理科の結びつきを意識させるために、身近な事例や科学に関わるニュース情報などを紹介する。 ・生徒一人一人が「わからない」といえる環境をつくるため、クラス全員で学ぶという姿勢をもたせる。 ・インターネットで映像資料を収集し視聴させることで、効果的に学習に結びつける。

生徒の状況	<p>《第8学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の考察において、科学的根拠をもとに自らの考えを述べるができる生徒が少しずつ増えてきた。 ・クロームブックタブレットを活用して、教科書の内容を自分なりに工夫しながらまとめることができている。 ・授業には積極的に参加しており、発言や質問を行う生徒が多い。また、わからないことを質問する生徒も多く、クラス全体で教え合う場面もみられるようになった。 ・読み解く力における「推論」が苦手な生徒がいる。
指導についての課題	<p>《第8学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より深いデータ分析や考察を行うことができるようにする。 ・読み解く力、説明する力の育成。 ・グループ学習や対話的な学びの場をより一層増やす必要がある。
授業改善に向けての具体的な方策	<p>《第8学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の実験結果や考察を読み取るだけでなく、インターネット検索を活用してより深い内容の情報を収集しながら分析や考察をまとめることができるようにする。 ・クロームブックタブレットを活用して、自分の考察と周りの考察を比較・検討する授業を展開することで、コロナ禍における対話的な学びやグループ学習の場を増やす。 ・読み解く力における「推論」を高めるために、実験において必ず自分の予想を理由とともにまとめる時間を確保する。 ・自らの考えや意見を発表する場をできる限り多く確保し、説明する力、伝える力の育成を目指す。 ・理科実験において、目的、実験手順、予想、結果、考察という思考のプロセスを意識させながら取り組むことで、論理的思考力の向上を目指す。

生徒の状況	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して積極的な発言や質問を行う生徒が多い。 ・実験や観察など、積極的に活動に臨むことができる。 ・単元により苦手意識に差が出る生徒もいる。また、既習事項の定着が不十分な生徒もいる。 ・難しい課題に対しては、自然と周りの生徒と話し合う雰囲気生まれるが、解答だけを確認してしまう生徒もいる。 ・コロナ禍の影響もあり、対話的な学びに関しては不足している。 ・実験レポートにおいて、考えを様々な表現でまとめられる生徒が増えてきた。また、科学的根拠をもとに考察できる力も少しずつついてきている。
指導についての課題	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み解く力、説明する力の育成 ・グループ学習や対話的な学び ・既習事項の定着
授業改善に向けての具体的な方策	<p>《第9学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と学習内容の結びつきを意識させた授業を行う。 ・インターネットから映像資料を収集し、学習内容と関連付けて活用する。 ・既習事項に関する小テストやワークの反復学習を通して、家庭学習や知識の定着を目指す。また、既習事項を活用した問題解決学習に取り組むことで自然現象や日常生活に科学が役立っていることを実感させる。 ・理科実験に関しては一人一人が実験を行うことができる環境を整備する。また、課題解決に向けた実験手順、予想、結果、考察という思考のプロセスを意識した実験プリントを活用することで論理的思考力や表現力、文章力の向上を目指す。 ・実験データの整理・分析やまとめ、考察にタブレット端末を活用させる。 ・学び合い活動を授業に取り入れることで説明する力の育成を行う。また、学習内容がわからない生徒が「わからない」と言える環境をつくるため、クラス全員で学ぶという姿勢をもたせる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」を育むため、ニュースや新聞などから科学的な事物・事象をピックアップし、学習内容に関連づけながら授業で取り上げる。また、探究プリントの添削や助言を通して、生徒の主体性を引き出す。

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4クラス3展開の少人数形式の授業を行っている。 ・英語に対して抵抗感を持っている生徒が7割近くいる。 ・概ね規律を守り集中して取り組む姿勢はある。 ・会話活動やアクティビティーを多く取り入れ、英語を使うことによって抵抗感を軽減している。 ・感染症対策をした上で少人数で行うペア活動では、発音を教え合ったり、英文の書き方を教え合ったり学び合う場面がある。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの取り扱いが少人数のクラスによって差があり、学期当初にやり方を明確化し統一させてから行う必要がある。 ・英語の基礎知識が定着していない生徒へのサポートが少ない。 ・主体的に学習に取り組む態度の評価材料を充実させる必要がある。 ・音読テストやスピーキングテストがあまり実施されていない。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業において、一人一人の理解度に応じた丁寧な指導を行う。 ・既習の英語の単語・連語・文法の定着度ミニテストや単元テストで確認する。 ・スピーキング力、音読の力を向上させるため、タブレットPCの録音機能を活用して話す力の向上をめざす。 ☆「板橋区授業スタンダード」の継続 ・本時のねらいを提示し、各自がねらいを達成できたか振り返りシート等で確認し授業展開に活かす。 ◇校内研修 研究テーマ 「他者と関わり合うことで、自らの学びを深める生徒の育成」 ～学力向上に向けた「読み解く力」の育成～ ・ペア活動等での英会話や、英問英答、アクティビティーを行うことで英単語や英文法を知識として定着させ、自己表現の向上を目指す。 ・教科書の題材、さらにSDGs等、社会的な問題にも目を向けて簡単な英文で自分の考えを発表したり共有できる場面をつくる。

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業実施（2クラス3展開・1クラス2分割） ・全体的に授業への取り組みも良く、音声練習やアクティビティー等、積極的にのぞんでいる。また、チャイムスタートを継続している。 ・表現練習を繰り返し行い、定着をはかっている。特に、基本文コンテスト（7年の復習）や基本文スピーキングテストへの取り組みは良く、暗唱した英文を使うとする姿勢が継続して見られる。書くことが苦手な生徒の中に、話す活動に意欲的な生徒も見られる。 ・項目ごとのふりかえりシートについては、見つけた課題を次に活かすように、取り組みに変化が見られる生徒もいる。 ・基本項目を概ね理解できている生徒も多くいるが、一方で昨年度の学習内容の中で未定着な部分がある生徒もいる。 ・課題提出については、英文の作成やワークの表現練習など、発展的な内容を意欲に行っているものがある一方で、家庭学習が不足している生徒もいる。来年に向けて、語彙数や英文の量も増えるので、コツコツと粘り強く学習する習慣を身に付けさせたい。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業のクラス編成上の工夫（ペア活動等様々な言語活動の実施・個に応じた指導の充実のため） ・基礎基本の力や課題提出が不十分な生徒への対応 ・ふりかえりシートの記入内容に発展性が不足しがちで、サポートが必要な生徒への対応 ・次年度のスピーキングテストの導入に向けた対策（継続） ・教科書のユニットや長文の題材の音読練習の継続
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>☆「板橋区授業スタンダード」の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題を明確にし、各自が達成できたかを測る時間をもつ。 ・協同学習を取り入れ、音読や語彙、英語表現の力（話す）を高める。 ・スピーキング力を高めるよう練習を継続する。 <p>①少人数授業のクラス編成を工夫し、コミュニケーションを通して、学び合う力を高めるようにする。</p> <p>②QAやトピック等の活動では、基本表現の定着と自己表現力の向上を目指す題材を設定する。</p> <p>③授業では、身近な題材に加え、社会的な問題にも目を向け、自分自身の考えを表現できるようにする。教科書の題材によっては、自分の考えを発表する等の機会（話す・書く）をもつ。</p> <p>④音声練習やスピーキング等の課題練習では、chromebookを活用する。</p> <p>⑤授業中の様子や単元テスト・学習課題への取り組み・提出物等により、各生徒の学習状況や理解度を把握する。課題が見られる場合にはその内容を補充する。</p>

<p>生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 少人数体制で、2クラス（A，B組）を3つのグループに1クラス（C組）を2つのグループで授業を行った。 • 文型ドリルのペア学習やスキットの暗記は積極的に行うことが出来た。 • 週末に出す長文和訳は意欲的に取り組む姿勢の生徒が増えてきた。しかしまだまだ長文を苦手と思い、自分でやらない生徒も一定数いる。 • 文法の基礎が積み上がっていない生徒が一定数いる。
<p>指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 週1回提出の長文和訳に関して、友達に頼る生徒が一定数いる。自力で出来る方法を提示する必要がある。 • 単元ごとの振り返りカードはただ記載して終わっている。次の学習にあまり役立てられていない。 • 音読を習慣化できていない。 • ペア学習で暗記した内容を使っての次の学習につなげられていない。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 長文和訳に関しては、現在シートで配布しているが、2学期にはデータベースで配布し、家で出来るようにする。 • 振り返りカードに関しては、前回の振り返りカードで課題になったところを反映した振り返りカードに変更改良する。 • 音読に関しては課題として自分の音声を録音し、自分のクラスルームにアップするようにする。（1学期にアップの仕方は確認済み） • ペアで行うスキットは動画を撮るなどリアルな雰囲気を作り、英語を使う状況設定に工夫をする。 • 英文法の基礎を固める必要がある生徒に対しては7年8年用のエイゴラボを活用する。

<p>生徒の状況</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全体として意欲的に取り組んでいるが、楽譜の内容を理解し演奏することに対して苦手意識をもっている生徒がいる。 • 音楽を構成する諸要素を聴き取る力をもっている生徒が多い。 <p>【7年】 楽譜を見て活動することに苦手意識をもっている生徒も見られる。</p> <p>【8年】 意欲的に取り組む生徒が多く、自分なりに表現の工夫をしようと取り組んでいる。</p> <p>【9年】 鑑賞では積極的に楽曲の特徴や表現の工夫を聴き取ろうとしている生徒が多い。</p>
<p>指導についての課題</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 聴き取った音楽の特徴や感じたことを自分の言葉で表現できるようにする。 • 音楽用語の知識を習得して、正確な楽譜の読み方ができるようにする。 • 楽譜を理解し自分なりの表現活動ができるようにする。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生徒同士で意見交換を行い、他者の意見も参考に音楽の特徴や感じたことを自分の言葉でまとめる力を身に付けていく。 • 学習過程の中でグループワークを取り入れ、他の生徒と関わり合い共働で活動しながら表現力を高めていく。 • 練習の様子をクロムブックで録画し、個人、ペア、グループ等で演奏を振り返り課題を確認し練習計画を立てていく。 • 音の3要素（音色、強弱、音高）や音楽の3要素（旋律、リズム、ハーモニー）を意識しながら「読み解く力」を高める学習活動を進めていく。

<p>生徒の状況</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作品をつくることに意欲的に取り組む生徒が多くみられるが、遊びの空間になりがちな場面も多くみられる。 <p>【7年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 様々な画材を扱うことに興味をもち、絵の具を使って表現するのが好きな生徒が多い。 <p>【8年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 楽しんで制作に取り組む姿勢が見られる。騒がしくなってしまうこともあるが、課題に対してよりよい表現や工夫する意欲はみられる。 <p>【9年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 集中力が欠ける場面が多くみられるが、興味のあることには集中して取り組める。
<p>指導についての課題</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 興味をもって意欲的に制作に取り組めるよう、導入を工夫する。 • 一人一人の制作進度の差をなくし、作品を完成させるために、毎回の目標を達成できるようにする。 • 道具の正しい扱い方を理解し、基礎的な技術を身につけることができるようにする。 • 自分がどういう作品を作っていきたいか理想をもち、意欲的に集中して活動できるようにする。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>【全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 年間を見通した題材ごとの目標を設定した上で、毎時間の目標を明確にし、達成に向けて取り組む。 • 成功体験を積み重ね、制作の意欲と自信をもたせる。 • 作品鑑賞の際にお互いの意見を聞き、完成した作品を鑑賞し合う協働的な学習を導入し、個々の価値観や表現方法の違いを知る。それぞれの良さを感じ取り、自身の制作に生かせるようにする。 • 毎時間、最後にふりかえりの時間を設けて、改善点を見出して良さを伸ばしていく。 • 見通しをもって制作できるように、題材ごとに目標とポイントをまとめた授業計画表を作成する。

生徒の状況	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって教え合いの程度が異なる。 ・意欲的に取り組むものの、個人的技能の差が大きい。 ・自分達で考えて行動ができるようになってきた。 <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女に教え合いができ、意欲的に取り組める生徒が多い。 ・個人的技能の差が大きく、できない種目は諦めてしまう傾向がある。 ・体力テストの持久力、瞬発力の数値が低い。 <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きで、積極的な生徒が多い。 ・男女関わらず教え合いができる生徒が多い。 ・集合整列など集団行動に時間がかかる
指導についての課題	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラス共通の教え合い活動を積極的に取り入れる。 ・体力向上をはかる。 ・個人的技能を定着させ、全体的な技能の習熟、向上を図る。 <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の運動量を増やし、説明を短縮できるようメリハリのある展開を目指す。 ・競技の特性に合わせて、持久力や瞬発力を高める運動を取り入れる。 ・自己の課題を見つけ工夫して練習に取り組み、技能の習熟を図る。 <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動での、素早い動きを意識させ取り組ませる。
授業革新推進に向けての具体的な方策	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いをシステム化し、内容を明確にすることで教え合い活動をしやすいとする。 ・反復練習で動きの方法を身に付けさせる。 ・見本となる動きを見せ今よりも技能を向上させようという意識を高める。 <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動の具体的な目標（タイム、態度等）を決め取り組ませる。 ・ペアや複数でポイントや課題解決のためにできることを考えさせる。 <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動の具体的な目標（態度、正確さ）を決め取り組ませる。 ・教え合いを取り上げ、全体で学び合う場を仕組む。 ・場の設定の工夫と段階的な指導を行い、個人の技能を高める。

<p>生徒の状況</p>	<p>【第7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、集中力が続かない生徒も一部いる。 • 作図や設計が苦手意識のある生徒が一部見られる。 <p>【第8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生徒は全体的に意欲的に取り組んでいる。 • 座学中心の授業が多い中でも意欲的に取り組む生徒が増えてきている。 • クロームブックの扱いに個人差がある。 <p>【第9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生徒は作業に意欲的に取り組んでいるが、関心が低い生徒も一部いる。 • クロームブックに対する意欲はあるが操作に個人差がある。
<p>指導についての課題</p>	<p>【第7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作業説明後、一部の生徒は説明した通りの作業方法が理解できていない。 • 生徒一人ひとりの作業の進捗状況に差がでる。 <p>【第8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作業説明後、一部の生徒は説明した通りの作業方法（今何をやる時間か）できていない。 • 距離を保つ必要があるため、ペアやグループワークの時間が確保しづらい。 <p>【第9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作業説明後、一部の生徒は説明した通りの操作ができていない。 • 生徒一人ひとりの作業の進捗状況に差がでてくる。
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>【第7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 机間指導をこまめに行い、生徒が作業を適切にできるように指導を行う。 • ICT 機器を活用し理解しやすい授業の導入や教材作成の工夫を行う。 • 短時間でもグループ、ペア間での教え合いの時間を確保するとともにクロームブックを活用し意見の共有を行う。 <p>【第8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 生徒が強い興味を持てるような導入の工夫をする。より身近な教材を多く取り入れることにより関心を持たせる。 • 机間指導を常に心がけ、生徒が機器や工具を適切に使用できるように指導を行う。 • 作業前後の機器や工具の整理整頓を生徒に徹底させることにより、安全を確保し円滑な授業ができるようにする。 • ICT 機器を効果的に活用し、生徒が理解しやすい授業を行う。 • コロナ対策をしっかりと行い、グループ、ペア間での教え合いの時間を確保する。 <p>【第9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作業中は机間指導を徹底し、生徒が機器を適切に使用できるように指導を行う。 • 機器や工具の整理整頓を生徒に徹底させることにより、安全を確保し円滑な授業ができるようにする。 • ICT 機器を効果的に活用し、生徒が理解しやすい授業を行う。

生徒の状況	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が週1時間ずつの授業にも話をしっかりと聞いて真剣に取り組んでいくという姿勢がみられる。 性別に関わらず生活の自立にむけての力（衣・食・住生活、消費生活・環境、家族・家庭生活）を3年間で身につけたいという意欲が感じられる。 <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様多くの生徒は教師の話をよく聞いて、真剣に授業に取り組もうとしているが一部私語で注意をする生徒もいる。 一部の生徒が、宿題に取り組まなかったり提出物を催促されても出さない。 <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受験生となり、全体的に意欲的に授業に取り組もうとしている。 提出物は、催促されても出さない生徒が男子にまだ多くいる。
指導についての課題	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業規律を含めた、基礎・基本を全員に徹底できるようにする。 作業では、自分の頭で考えながら技術向上をはかるよう、働きかける。 <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での安全を大切にして、理解したことを失敗しても作業をさせていく。 個々の習熟度・進捗状況に応じて考えながら学んでいける指導を行う。 <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少ない授業時数の中で、毎時間の作業の時間を多く確保する。 自分の作品に工夫をいれて完成まで頑張らせて製作し、達成感を持たせる。 調理実習も取り入れ、中学校で身につけた力が将来実践できるようにする。
授業革新推進に向けての具体的な方策	<p>【7学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品を工夫して完成まで頑張らせて、自分の作った作品に愛着を持たせる。 調理実習を行う折には、マスクや手洗いを徹底しつつグループ協働作業を行う。 <p>【8学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業の動画画面等を適宜示し、作業内容が明確に伝わるようにするとともに、授業のルールを守って安全に作業させ、集中して作品を作らせる。 調理実習を行う折には、マスクや手洗いを徹底しつつグループ協働作業を行う。 <p>【9学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分がこれまで積み重ねてきた力でイメージを考えて作品に取り組みせる。 自分の作品に思いを込めて制作できるように、インターネットでの調べ学習や書籍からのヒントも参考にして教師からもアドバイスをもらう。 今までの3年間の授業の総まとめとして自立と共生の力をさらに習得し、これからの家庭生活中で生かせるようにする。

